

第5学年2組 外国語活動学習指導案

令和元年11月25日(月)
 指導者 星 なつみ
 ケンプ・アーロン
 場所 5年2組教室

1. 単元名 She can run fast. He can jump high. できること (We can1 Unit5)

2. 単元目標

- ・自分や第三者についてできることやできないことなどを積極的に紹介し合おうとする。
 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・自分や第三者について、できることやできないことを聞いたり言ったりする表現に慣れ親しむ。
 (外国語への慣れ親しみ)
- ・自分や第三者について、できることやできないことを、考えや気持ちも含めて伝え合う方法に気付く。
 (言語や文化への気付き)

3. 教材について

(1) 単元について

本単元では、三人称に初めて出会う。中学年の外国語活動においては一人称と二人称のみで思いを伝え合ってきた児童が、やがて三人称を使って自分の身近な家族や友達の話をしたくなるのは、ごく自然な流れである。しかし、中学校の英語教育で多くの生徒がつまずくとされる三人称単数形の動詞変化をこの段階で扱うことは小学生にとって負荷が大きい。そのため、この単元では **can** を共に扱うことで、動詞変化を回避している。また、**can** を使って自分のできることやできないことを言ったり、友達に質問したりする活動は、友達や先生のこれまで知らなかったことを新たに発見することができる機会となる。相手の知らなかった意外な一面を発見できることは児童にとっても楽しいことであると考えられる。この単元を進めていく中で、クラスメイトや学校の先生たちの新しい一面を知り、もっと知りたい、という意欲を持たせたい。単元最後の活動である「先生クイズ」に向かうようにしたいと考える。本単元には文字に名称のほかに音があることを気づかせる活動も含まれているが、これらの活動はイングリッシュタイムで行い、授業内では扱わないこととする。

言語材料 ○Can you (sing well)? Yes, I can. / No, I can't. [I / You / He / She] [can / can't] (sing well). ○動作 (play [the recorder / the piano], ride a [bicycle / unicycle], swim, skate, ski, cook, dance, run fast, jump high, sing well), can, can't, he, she, Mr., Ms., net, omelet [既出] スポーツ, 動作, 日課, not

4. 児童について (男子12名、女子14名 計26名)

本学級の児童は、4年生で **Let's try 1, Let's try2** を使って外国語活動を15時間学習してきた。4年生で外国語活動の学習が始まる前にも、朝のイングリッシュタイムなどで色や数字などの英語に触れてきた子どもたちである。今年度は計70時間の外国語活動を予定しており、1学期前半は **Hi, friends1, Let's try2** を使用し、1学期後半からは **We can1** を使って学習している。

事前に外国語活動についてのアンケートを行った。(回答25名。欠席1名) 結果は次の通りである。

「外国語活動」の学習は好きですか。	好き	どちらかと言えば好き	どちらかと言えば好きではない	好きではない
	17人	5人	3人	0人
①で答えた理由を教えてください。	好き・どちらかと言えば好き			
	・英語で友達と話すのが楽しいから。 ・アーロン先生と話すのが楽しいから。 ・他の国のいろんなことがわかるから。 ・英語で会話して友達のことを知れるから。 ・やっていたらやっていたほど、覚えていけて楽しくなるから。 ・英語が得意になると英語でたくさん話せるようになって楽しいから。 ・海外に行くために話したいから。 ・いろんな英語を話せるようになりたいから。			
「外国語活動」の授業中の活動では、どんなことが好きですか	どちらかと言えば好きではない			
	・何をしゃべればいいのかわからないから。 ・英語の言い方がわからないから。 ・友達に聞いてもわからず、わからないまま終わってしまうから。			
「外国語活動」の授業でできるようになりたいこと、やってみようことは何ですか。	・チャンツを言うこと ・アーロン先生と話すこと ・色々なことを友達や先生に尋ねたり、それに答えたりすること。 ・友達にインタビューすること。 ・文字を書くこと。			
	・英語でみんなともっと話したい。 ・外国の人や小学生と話してみたい。 ・英語をすらすら話せるようになりたい。 ・発音をよくなりたい。 ・外国の歌を歌ってみよう。 ・班ごとにクイズを出し合いたい。 ・英語で文章を書いてみたい。 ・英語のテストをしてみたい。			

外国語活動の授業に対して前向きな子どもが多いが、あまり好きではないと感じている子もいる。英語を聞くことへの抵抗感はあまりなく、自分や日本のことと比べながら Let's Watch and thinkなどを視聴することができている。聞いたことの内容に対して驚いたり、うらやましがったりなどの反応をしている児童が多い。発言するときには英語が聞き取れていてもなかなか自信が持てず、発言するのは特定の子に偏りがちである。外国語活動が好きと答えた理由として、「話すこと（やりとり）」に対して楽しさを感じたり、達成感を持ったりしていることが挙げられる一方で、好きではない理由としても同じように「話すこと（やりとり）」が挙げられている。「正しく話さなければならない」という意識が強いことが、「何をしゃべればいいのかわからない」という不安につながっていると思われる。Small talk やチャッツなどで繰り返しフレーズをインプットして自信を持たせるのと同時に、児童同士でのやりとりの場面では「わからない」を拾い上げ、何と言えばいいのかを考える機会を設けることで、言えなかったことが言える、わからなかったことがわかるという達成感を持たせていきたい。

5. 指導にあたって

【研究全体テーマ（＝置賜で育てたい資質・能力）】

課題の解決に向けた対話を通して、ものごとに対する見方や考え方が広がったり深まったりしたことを自覚している力を育成する。



【全体テーマを受けて小学校外国語部会における目指す授業】

児童が聞きたい・伝えたいという思いを持てる言語活動を通して、相手の考えや気持ちをよく聞き、表現に慣れ親しみながらやり取りする中で学びを実感できる。

目指す授業から、外国語活動の授業づくりのポイントを以下の二点とした。

①互いの考えを伝え合うために、主体的にやり取りできる言語活動を仕組む

外国語活動における言語活動とは「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。考えや気持ちを伝え合うためには、児童の「話したい」「聞きたい」を引き出し、児童一人ひとりが自分の伝えたいことを持つことのできる「目的・場面・状況」の設定が必要である。本単元では、単元ゴールの活動を、先生方へのインタビューをもとに作成した「先生クイズ」とし、単元を通して児童にとって身近な存在である先生方の意外な一面を探っていく活動を設定した。導入において、単元のゴールとなる会話として He を使った前担任の紹介を示すことで児童に単元全体の見通しを持たせる。「自分たちもこんなクイズを作りたい。」という気持ちを持たせたうえで、単元の学習を進めていく。本時は「友達の意外な一面を探ろう」という目的でコミュニケーション活動を行う。「できること、できないことを尋ねよう」というコミュニケーション活動を行った場合、“Can you run fast?” “Yes, I can.” “Can you play soccer?” “No.” “See you.”のような会話になりがちである。外国語活動のやりとりでは form（形）も大切ではあるが、meaning（意味）を無視しては、言語活動とは言えない。相手の言ったことに対して驚いたり、自分と同じだと思ったら “Me, too!” と言ったり、内容に対して聞き手が反応することが、話す側の意欲にもつながっていく。相手の言っていることをよく聞いて、自分が思ったこと感じたことを英語でどう伝えればよいか考える、この時に聞き手側にも外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方が働く。今回は「意外な一面を知る」という目的でやりとりを行うことで、相手の言った内容に注目させ、答えを予想した上で質問することで、聞く必要感をさらに高められるようにした。

②語句や表現を繰り返し用いてやり取りし、振り返ることで学びを実感する

教師と ALT がモデルを示したり、児童に問いかけたりしながらやりとりをすることで慣れ親しませたい表現を繰り返し聞かせ、活用につなげていく。また、児童同士のやりとりも相手を変えながら繰り返し行うことで活動の幅を広げ、表現を何度も試せる機会を多く作る。その際、活動はすべて流すのではなく、途中で一旦活動を止める時間を作り、児童の良い姿（話し方、反応の仕方、アイコンタクトや相槌）を捉え、全体に広めていく。どこがよかったのか、真似したいところはどこかなどを問いかけ、児童たち自身が考えることで、次の活動をさらによりよいものにできるようにする。1回目よりも2回目のやりとりのほうがうまくできた、伝えたいことを伝え、相手の話していることに反応できた、と児童がやりとりの質の高まりを感じられるようにしていきたい。コミュニケーションなどの活動をした際は、必ず振り返りを投げかけるようにする。その際「～できた人？」という聞き方ではなく、「初めて知ったことがあった人？」などコミュニケーションを通して知ったことや学んだことに焦点を当て、英語で聞いてよかったという気持ちを持たせたい。1時間ごとの振り返りを各時間のめあてに対する3段階評価と一言のコメントで記入し、単元最後に文章で自分の学びを振り返る時間を設定する。児童が単元を通して英語を使ってできるようになったことに気づき、自己の変容に目を向けられるようにしていく。

6. 指導計画と展開の構想（8時間扱い 本時4／8）

単元のめあて

時	目標(◆)と主な活動【】、○ 【】＝誌面化されている活動	◎評価の観点<方法>
1	<p>◆自分ができると、できないことを表す表現を聞いたり言ったりしようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Small Talk : 先生のできること・できないこと 最初に単元のゴールとなる学校の先生クイズのやりとりをT2と行い、見通しを持たせる。クイズに出てきた先生の自己紹介を視聴する。 【Let's Play 1】 p.34, 35 【Let's Chant】 Can you sing well? (オプション2) p.35 【Let's Watch and Think 1】 p.36 	◎自分ができると、できないことを表す表現を聞いたり言ったりしようとしている。<行動観察・振り返りカード点検>
2	<p>◆自分ができると、できないことを表す表現を聞いたり言ったりして慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Small Talk 誌面をつかったWho am I?クイズ(can) 【Let's Chant】 Can you sing well? (オプション②) p.35 【Let's Listen 1】 p.36 【Let's Play 2】 ポインティング・ゲーム p.37 ○ キーフレーズ・ゲーム・I can ~ / I can't ~. を使って行う。 ○ Let's talk ワークシート(4時間目でも使用)に自分のできること、できないことの印をつけ、ペアで伝え合う 	◎自分ができると、できないことを表す表現を聞いたり言ったりしようとしている。<行動観察・振り返りカード点検>
3	<p>◆できるかどうかを尋ねたり答えたりしようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Small Talk : 好きなスポーツや趣味 【Let's Listen 2】 Who am I? p.36 【Let's Chant】 Can you sing well? (オプション①③) 【Activity 1】 p.37 ・指導者の質問に答えたり、指導者と一緒に代表児童に尋ねたりする。 ・ペアでできることできないことを予想して尋ね合う。 	◎できるかどうかを尋ねたり答えたりしようとしている。<行動観察・記述分析・振り返りカード点検>
4	<p>◆相手の答えを予想して、できるかどうか尋ねたり、それに答えたりしようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Small Talk : 誌面をつかったWho am I?クイズ (Can you ~?) 【Let's Watch and Think 2】 前半 【Let's Chant】 Can you sing well? (オプション①③) 【Activity 2】 p.37 ・友達にあることについてできるかどうかを予想して尋ね、できる場合はワークシートに名前を書く。答える側はできることについて情報を付け足して詳しく答える。 	◎できるかどうかを尋ねたり答えたりしようとしている。<行動観察・ワークシート・振り返りカード点検>
5	<p>◆第3者についてできることやできないことを聞こうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Small Talk : ALTのできること、できないことクイズ 【Let's Watch and Think 2】 後半 p.38 ○ Who is he? Who is she? ・指導者によるHe / She を使った身近なキャラクターや有名人などの人物紹介を聞き、He / Sheの使い分けを推測する。 ・指導者によるHe/Sheを使ったクラスメイトの人物紹介を聞き、それが誰かを当てる。慣れてきたら児童代表がクイズを出題する。 【Let's Chant】 Can you sing well? (オプション④) p.35 	◎第3者についてできることやできないことを聞こうとしている。<行動観察・記述分析・振り返りカード点検>
6	<p>◆第3者についてできることやできないことを尋ねたり答えたりしようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 【Let's Chant】 Can you sing well? (オプション③④) p.35 【Let's Listen 3】 p.40 ○ Who is he? Who is she? ・ペアで、Let's Listen 3 の登場人物についてクイズを出したり答えたりする。 ・クラスメイトのできること、できないことについてクイズを出したり、答えたりする。 前時で使用したワークシートをランダムに配り、その人についてクイズを出す。 【Activity 3】 p.39 ・インタビューする先生ができることやできないことを予想し、ワークシートにカードを貼る。 ○ Let's Read and Write (Unit5-4) ・例を参考に、自分のできることやできないことを書く。 	◎第3者についてできることやできないことを尋ねたり答えたりしようとしている。<行動観察・振り返りカード点検>

7	<p>◆自分やある人物について、できることやできないことを、考えや気持ちも含めて伝える方法に気付く。</p> <p>【Let's Chant】 Can you sing well? (オプション④)</p> <p>○ Small Talk : Who is this? Quiz</p> <p>【Activity 5】 p.40</p> <p>・グループになり、インタビュー結果をもとに先生ができることやできないことを、自分のことも含めて伝え合う。</p> <p>【Activity 4】 p.39</p> <p>・グループごとにインタビューの結果を整理し、スピーチの準備をする。(ポスター作り)</p> <p>【STORY TIME】 ① p.41</p> <p>・読み聞かせを聞いて、話の概要を理解する。</p>	<p>◎自分やある人物について、できることやできないことを、考えや気持ちも含めて伝える方法に気付いている。</p> <p><行動観察・振り返りカード点検></p>
8	<p>◆他者に配慮しながらある人物についてできることやできないことを自分の考えも含めて紹介しようとする。</p> <p>【Let's Chant】 Can you sing well? (オプション④) p.35</p> <p>【Activity 5】 p.40</p> <p>・インタビュー結果をもとに、先生ができることやできないことを自分のできることやできないことも交えてクイズ形式で紹介する。(Who is he? He can ~. I can ~. Who is he? That's right! One more question. Can he run fast?)</p> <p>○振り返り</p>	<p>◎他者に配慮しながら、ある人物についてできることやできないことを、自分の考えも含めて紹介しようとしている。<行動観察・振り返りカード点検></p>

◎文字と音についてはイングリッシュタイムに行く。アルファベットの文字の読み方には、名称のほかに音があることに気付いている。<行動観察・ワークシート>

1	<p>【Jingle】 Animals Jingle p.39 (p.77)</p>
2	<p>【Jingle】 Animals Jingle p.39 (p.77)</p> <p>Sounds and Letters (5×5ビンゴ Unit 5-6)</p>
3	<p>【Jingle】 Animals Jingle p.39 (p.77)</p> <p>Sounds and Letters (聞こえたアルファベットの文字をていねいに書く)</p>
4	<p>【Jingle】 Animals Jingle p.39 (p.77)</p> <p>Sounds and Letters (ワードサーチ)</p>
5	<p>【Jingle】 Animals Jingle p.39 (p.77)</p> <p>Sounds and Letters</p> <p>・アルファベットを見て、jingle を思い出しながらその音とその音で始まる動物を言う。</p>

7. 本時の指導

(1) 目標 相手の答えを予想して、できるかどうか尋ねたり、それに答えたりしようとしている。

(2) 参観の視点

①教師のモデルを意識し、慣れ親しませたい表現を用いながら主体的にやりとりすることができたか。

②「言語活動→中間振り返り→再チャレンジ→終末の振り返り」の流れで活動を仕組むことで、できるようになったことなどを確認し、学びを実感できたか。

(3) 指導過程

時間	主な児童の活動	T1	T2	※留意点 ◎評価
2分	【始まりの挨拶】 ・挨拶をして、質問に答える。	○児童とあいさつする Hello, everyone. How are you?	○児童とあいさつする。 How's the weather? What's the date today? What day is it?	
5分	○Small Talk : 誌面をつかったWho am I?クイズ (Can you ~?) ・Can you ~?で質問しながらWho am I?クイズに答える。 ・本時の活動について知る。	○T1とT2で誌面を使ったWho am I?クイズのやりとりをする様子を見せる。 T2: It's quiz time! Who am I? I'm an animal on this page. T1: OK. Umm... can you run fast? T2: No, I can't T1: You can't run fast. Can you swim well? T2: Yes, I can. I can swim very well. T1: oh, very well? みなさん予想できましたか? 何だろう...もう一つ質問を考えられる人はいますか? S1: Can you fly high? T2: No, I can't. I can't fly high. But I'm a bird. T1: 予想できたかな? Let's say the answer, 1,2! S: Penguin! T2: That's right!		※電子黒板に該当ページを映してクイズを始める。 ※1回目のやりとりは教師同士でやりとりするが、2回目は児童がT2に質問してクイズを進める。
10分	【Let's Watch and Think 2】 前半のみ ・映像を見て、2人の登場人物 (John and Christina) のでできることできないことを聞き取って、教科書に印をつける。	○電子黒板のデジタル教科書を見せ、登場人物の名前を読んだり、誌面の動作についてできるかどうか尋ねたり、T2や児童とやりとりする。 ○1回目はできることに注意して丸ごと聞き、2回目は区切りながらできないことについても注意して聞いて、印をつけるよう指示する。 ○通して聞いた後、区切りながら、答え合わせをしていく。	○誌面の人物や動作について T1 や児童とやりとりする。 ○児童が聞き取りづらそうな箇所を繰り返して聞かせる。	※登場人物の名前を読んだり、できることできないことを尋ねたりなどのやりとりをしたりして、視聴する映像に関心を持たせる。 ※どちらの人物について言っているのか、確かめながら進める。 ◎登場人物のできること/できないことを聞き取って、教科書に○や△を書き込むことができる。(行動観察・誌面分析)
5分	【Let's Chant】 Can you sing well? (オプション①③)	○インタビュー活動に入る前にチャンツで質問の仕方について振り返ることを伝える。 ○児童の様子を見ながら一緒にチャンツを発話する。	○児童の様子を見て、区切ったり速さを変えたりしながらチャンツをする。	※児童の様子を見ながらT2にデジタルの後にもう一度繰り返してもらおうなどする。
20分	【Activity 2】 友達ができそうなことを予想して尋ね、できる場合はワークシートに○をつける。詳しく話され	○前時に書いたワークシートのできることやできないことについて、さらにくわしく書くことを伝える。 ○T1とT2でデモンストレーションを行う。		※先生方へのインタビューの際にも、より詳しく意外性のあるものを聞けるとよいことを意識付けする。 ※例示しながら書き方を説明する。 ※デモンストレーションを

